

第 27 回

三遠南信 サミット 2019

テーマ：新たなビジョンの始動～将来に向けて今すべきこと～

主 催：三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）

共 催：三遠南信地域経済開発協議会

後 援：農林水産省、経済産業省、国土交通省

- 1 事業名 第27回三遠南信サミット2019 in 南信州
- 2 テーマ 新たなビジョンの始動 ～将来に向けて今すべきこと～
- 3 日時 令和元年10月30日(水) 13:00～20:30
- 4 会場 飯田市鼎文化センター(飯田市鼎中平1339-5)
飯田市鼎体育館(飯田市鼎中平1339-5)
シルクホテル(飯田市錦町1丁目10番地)
- 5 概要
 - (1) 全体会(13:00～15:00) 【飯田市鼎文化センターホール】
 - (2) 住(防災)を主題とした連携検討会(15:15～17:35)
【飯田市鼎体育館アリーナ・卓球室】
【飯田市鼎文化センター学習展示室】
 - (3) 報告会(18:00～18:30) 【飯田市鼎文化センターホール】
 - (4) 交流会(19:15～20:30) 【シルクホテル2階 錦繡】
- 6 同日開催
 - 11:35～12:30 三遠南信地域経済開発協議会
【シルクホテル4階 飛天】
 - 9:50～10:20 三遠南信地域市町村議会議長協議会総会
【シルクホテル3階 瑞雲】
 - 10:30～11:20 三遠南信、浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進議員協議会総会
【シルクホテル4階 錦繡】
 - 10:15～11:05 三遠南信自動車道 天龍峡大橋視察
【天龍峡大橋】
 - 10:00～12:00 三遠南信地域住民セッション
【飯田市鼎文化センター学習展示室】

- 1 日時 令和元年 10 月 30 日（水） 13：00～15：00
- 2 会場 飯田市県文化センター（飯田市県中平 1339-5）
- 3 司会進行 西村容子（フリーアナウンサー）
- 4 内容

開会

あいさつ

- ・主催者挨拶 SENA 会長（浜松市長） 鈴木 康友
- ・開催地代表挨拶① SENA 副会長（飯田市長） 牧野 光朗
- ・開催地代表挨拶② SENA 副会長（飯田商工会議所会頭） 柴田 忠昭
- ・来賓祝辞① 経済産業省関東経済産業局地域経済部長 北廣 雅之 氏
- ・来賓祝辞② 国土交通省中部地方整備局道路部長 池口 正晃 氏
- ・来賓祝辞③ 長野県副知事 太田 寛 氏
- ・来賓紹介、祝電披露

舞台転換

報告「新ビジョンの始動とプラットフォームの推進について」

SENA 事務局長 原川 知己

パネルディスカッション 「三遠南信地域とスーパー・メガリージョン構想」

登壇者		
コーディネーター	飯田市長（SENA 副会長）	牧野 光朗
パネリスト	SENA 会長	鈴木 康友
パネリスト	名古屋都市センター センター長	奥野 信宏 氏
パネリスト	浜松・浜名湖ツーリズムビューロー 理事・本部長	前田 忍 氏
パネリスト	豊橋商工会議所会頭（SENA 副会長）	神野 吾郎

閉会

5 パネルディスカッションの内容

○テーマ「三遠南信地域とスーパー・メガリージョン構想」

○目的

2027年のリニア中央新幹線の開業により形成されるスーパー・メガリージョン構想と、三遠南信地域との関係について情報共有を行い、また、リニア中央新幹線の開業と、三遠南信自動車道や東海道新幹線などの既存の交通網とがもたらす相乗効果・メリットについて意見交換を行う。

○議論の内容

- ・我が国では、2040年頃に高齢化がピークとなり、人口減少がより深刻になる。地方創生時代において県境を越えた広域連携の重要性は増していく。
- ・スーパー・メガリージョン構想が実現すれば、観光としての商圏自体もより広がる。インバウンド需要を取り込み観光振興していくためには、三遠南信地域のブランドやストーリーをしっかりと磨き上げて「本物」にし、外国人向けにブラッシュアップしていくことが求められる。
- ・航空機産業など新しい可能性のある産業の連携が重要であり、ものづくりから新しいアイデアやネットワークの形成など広がっていくのではないかな。
- ・当地域では食を代表とする農業や工業などの1次2次産業の力は大きいですが、それらをさらに磨いて伸ばしていく必要がある。地域内にある伝統工芸品を21世紀の商品として需要をつくっていくと共に、この技術を継承していくプラットフォームが必要である。
- ・リニア中央新幹線の開業に伴いこの地域で一つポイントとなるのがJR飯田線である。さらにはリニア中央新幹線ができることにより、東海道新幹線の使われ方が変わってくる。東海道沿線地域ではリニアの効果をいかに取り込んでいくかということが重要である。
- ・スーパー・メガリージョン構想で考えられているのは巨大な「対流の促進」である。三遠南信地域はナレッジキャピタルの集積地になるということが考えられる。
- ・第2次三遠南信地域連携ビジョンの5つの基本方針、これを着実に進めていくことにより、リニア時代における当圏域の目指す姿というものが明確になる。スーパー・メガリージョン構想を三遠南信地域に広く波及させることが重要であり、そのためには南北軸（三遠南信自動車道）の一日も早い整備促進が必要不可欠である。

6 当日の様子



1 日 時 令和元年 10 月 30 日（水） 15：15～17：35

2 会 場 飯田市県体育館（飯田市県中平 1 3 3 9-5）

3 目 的

南海トラフ巨大地震等の大災害が起きた際に、三遠南信地域の受ける被害と、地域として共通して考えていくべき内容を検討する。個別の組織対応の限界を知り、平常時からの三遠南信地域連携の必要性を再認識するとともに、防災をテーマとした三遠南信地域のプラットフォームについて形成・促進を検討するきっかけづくりとする。

4 内 容

はじめに

プロジェクションマッピングを利用した情報共有

名古屋大学減災連携研究センター 福和伸夫センター長

会場移動・休憩 15 分

各検討グループにおいて議論

[A. 道グループ]

- コーディネーター 名古屋大学 特任教授 新井 伸夫 氏
- テーマ 「道路などの社会基盤の被害とその備え」に向けて
- 場 所 飯田市県体育館アリーナ

[B. 住グループ]

- コーディネーター 名古屋大学 准教授 都築 充雄 氏
- テーマ 「地域住民の安全安心の確保」に向けて
- 場 所 飯田市県体育館アリーナ

[C. 技グループ]

- コーディネーター 愛知大学 教授 戸田 敏行 氏
- テーマ 「災害時における産業活動の継続及び地域連携」に向けて
- 場 所 飯田市県文化センター3階 学習展示室

[D. 人・風土グループ]

- コーディネーター 法政大学 教授 高柳 俊男 氏
- テーマ 「災害に強い地域づくり、地域活動」に向けて
- 場 所 飯田市県体育館3階 卓球室

閉会（各検討グループ毎）

5 各検討グループの議論内容について

○「道」検討グループ

- ・南海トラフ地震に着目すれば、太平洋側が大きな被害を受け、それに対し南信州地域がバックアップをするという関係となる。しかし、災害は必ずしも地震だけということではないため、お互いが役割を担いながら支え合っていくことが必要となる。
- ・そのためにも、物・人を動かす道路が重要であり、災害という視点からも三遠南信自動車道が早く開通することが重要となる。そして三遠南信自動車道が強いものであることが重要だと共有された。

○「住」検討グループ

- ・備蓄や受援について議論を行い、拠点から避難所までのラストワンマイル問題や、小さい自治体特有のノウハウを持った人材不足等の問題が議論された。
- ・連携の仕方の中で「多重な連携」という言葉が1つ大事なキーワードとなった。自治体同士の連携、電力の話は電力会社と連携、道路が寸断する場合は道路管理者との連携、さらには自衛隊や地域住民の連携も含めて、予想できない災害に備えていく必要がある。

○「技」検討グループ

- ・企業と企業が団地内で共助し、工業団地内で連携して行われる防災の取組が紹介された。防災協定は締結するだけでなく、訓練等を通じて有事の実効性を高めていく必要がある。
- ・中小企業のBCPについて、飯田地域の例では策定率はあまり高くないが、8割くらいの企業が策定の必要性を感じている実態がわかり、公助による策定促進が必要になる。
- ・三遠南信災害時相互応援協定という自治体の協定があるが、これを発展させて民間も含めた形というのも1つの方向として検討できるのではないかと。

○「人・風土」検討グループ

- ・高齢化や人口減少により、徐々に防災組織の自助の機能が低下しているという課題が確認された。
- ・地域の自助機能を高めるためには、日頃から顔の見える関係をつくり「自分の地域は自分で守る」という意識を醸成していくことが必要である。さらに今日この場で話し合われたような地域住民による先進的な取組を、三遠南信地域全体で共有していくことが重要である。

6 当日の様子



- 1 時 間：18：00～18：30
- 2 場 所：飯田市県文化センター ホール
- 3 司会進行：西村 容子 氏
- 4 内 容

連携検討会の各検討グループの報告

福和伸夫 減災連携研究センター長による講評

サミット宣言

飯田市長によるサミット宣言

次期開催地域挨拶

浜松市長によるあいさつ

写真撮影



第 27 回三遠南信サミット in 南信州では、「新たなビジョンの始動～将来に向けて今すべきこと～」をテーマとし、全体会及び「住」（防災）を主題とした連携検討会を実施し、議論を行いました。

本日のサミット開催地である南信州地域では、2027 年に開業をめざすリニア中央新幹線の長野県駅の設置が飯田市内に予定されており、新ビジョンの目指すべき地域像で示されている「大都市圏・世界と結ばれる広域連携都市圏の形成」に向けて、大きな変化を迎えています。全体会においては、リニア中央新幹線の開業に伴い形成されるスーパー・メガリージョンを三遠南信地域としてどう活用していくか、有識者を迎え議論を行いました。

「住」（防災）を主題とした連携検討会では、新ビジョンの基本方針として掲げる『住』安全安心な広域生活圏の形成」に焦点を当て、南海トラフ巨大地震による被害状況とその対応について共有し、協議しました。協議内容を踏まえ、次の事項に重点を置き広域防災体制の充実を図り、地域連携を推進します。

- 1 平常時及び災害時の情報共有を一層進めます。さらに「命の道」でもある三遠南信自動車道の必要性を再確認するとともに、一日も早い開通に向け、地域一丸となって取り組んでまいります。
- 2 有事の際にも産業活動を維持・継続していくために、事業継続計画（BCP）の策定促進を図るとともに、必要な物資の供給等、早期復旧のために相互応援・協力を行うなど、災害に負けない産業連携体制を目指します。
- 3 地域住民の安全安心確保のために、備蓄物資や、水をはじめとしたライフライン施設について現状を確認し、広域的な緊急物資の運搬体制等について検討を進めます。
- 4 災害に強い地域を目指し、地域住民による先進的な取組について、三遠南信地域内で共有を図ります。また、過去の災害の体験等を引き継ぎながら、地域の防災を担う人材を育成し、地域、風土に根ざした安心・安全な地域づくりを推進します。

本日の議論を契機として、南海トラフ巨大地震などの災害から、一人でも多くの命を守るためにも、災害時相互応援協定を踏まえ、迅速できめ細かな相互応援体制を築き、有事に備えた緊密な連絡体制の確立や必要な情報伝達訓練を実施する等、各主体の連携した取組により、安全安心な広域生活圏の形成を目指します。

これらの成果をここに集う全ての主体が共有し、第 27 回三遠南信サミット 2019 in 南信州のサミット宣言といたします。

SENA 構成自治体においては、実施している連携事業を継続、展開していくと共に、新たな連携事業の実現にも努め、広域連合設置を見据えた地域連携のプラットフォーム形成に取り組み、新たな三遠南信地域連携ビジョンの推進に尽力してまいります。

令和元年 10 月 30 日

三遠南信地域連携ビジョン推進会議

三遠南信サミット 2019 in 南信州

- 1 時間：19：15～20：30
- 2 場所：シルクホテル 錦織
- 3 司会進行：西村 容子 氏
- 4 会費：6,000円
- 5 タイムテーブル：

開会

乾杯（飯田市議会 議長 湯澤啓次氏）

パフォーマンス（天龍峡龍神の舞）

あいさつ（下伊那町村会長 平谷村長 小池正充氏）

閉会

- 6 その他展示
 - ・観光PRブース（豊橋・飯田・浜松）
 - ・地酒試飲コーナー



第27回三遠南信サミット2019in南信州 タイムテーブル

施設名	会場(部屋)	階	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
県文化センター	ホール	1階						全体会				報告会		
	学習展示室	3階		住民セッション							「技」検討G			
県体育館	アリーナ	1階							連携検討会 情報共有		「道」検討G			
	卓球室	3階								「住」検討G				
シルクホテル	錦繡	2階			三遠南信、浜松三ヶ日・豊橋道路 建設促進議員協議会総会								交流会	
	瑞雲	3階	三遠南信地域市町村 議長協議会総会											
	飛天	4階				経済開発 協議会								
天龍峡大橋			視察											

…サミット
 …サミット以外の関連会議 (SENA・企画担当)
 …サミット以外の関連会議